



Rotary  
Club of Toyohashi  
North

# CLUB WEEKLY

ROTARY CLUB OF TOYOHASHI-NORTH



2025～2026 年度  
RI 会長メッセージ

UNITE FOR GOOD  
よいことのために手を取りあおう

豊橋北RC  
会長テーマ

利他と言う高みに登る為に  
本気でやるべきことを  
皆でやりましょう

2760 地区

例会日＝毎週火曜日 12:30 例会場＝ホテルアークリッシュ豊橋 会長 高坂泰弘 副会長 酒井和良 幹事 川口和樹

豊橋北ロータリークラブ 〒440-0075 豊橋市花田石塚 42-1 豊橋商工会議所内 TEL(0532)53-1000 FAX(0532)53-6447

第 3 2 4 1 回例会

2 月 24 日 (火)

vol. 70 No. 24

ゲスト : 橋本美空さん(国際ロータリー第 2760 地区青少年交換プログラム派遣候補生/豊橋東高等学校 1 年)  
橋本真紀さん(橋本美空さんお母様)  
三宅耕一氏(日本ボーイスカウト愛知連盟穂の国地区協議会 地区委員長)  
中村慶三氏(同 地区コミッショナー)・村田慈幸さん(同 豊橋第 8 団ローバースカウト)  
アルファロ フェレイラ君(サンクス奨学生)

ビジター : なし

出席報告 : 会員 61 名 欠席 17 名 出席率 72.13% 前々回修正 96.30%

ロータリーソング : 奉仕の理想

メニュー : 中華

## 会長挨拶・報告

### 高坂泰弘会長



初めに本日のゲストを紹介いたします。国際ロータリー第 2760 地区青少年交換プログラム派遣候補生で現在豊橋東高等学校 1 年の橋本美空(みく)さん。美空さんのお母様の橋本真紀様。日本ボーイスカウト愛知連盟穂の国地区協議会地区委員長の三宅耕一様。同じく地区コミッショナーの中村慶三氏様。同じく豊橋第 8 団ローバースカウトの村田慈幸(しげゆき)さん。サンクス奨学生のアルファロ フェレイラ君。以上の方々です。

先週の職場訪問例会につきましてインフルエンザ B 型に罹患し参加することができず、誠に申し訳ありませんでした。発熱は一時的に 38 度まで上がったものの、ほぼ 37.5 度程度でしたが、関節と筋肉がチクチクと痛み続けました。小森委員長はじめご尽力頂きました皆様にお詫び申し上げます。インフルエンザはまだまだ流行しておりますので皆様もご注意ください。

2/14(土)の東三河分区分 IM におきましては、21 名のご登録をいただきありがとうございます。来たるべき南海トラフ大地震に備えるというテーマで、大変に身に迫るお話でした。講師の能登半島地震当時の能都 RC の会長には、生々しい被害の様子を写真を交えてお話ししていただきました。因みに地名に準ずれば「能登」ですが、2005 年の町村合併により廃止された能都町に由来し、今も能登の都を標榜するためにクラブ名は「能都」の表記を用いているとのことでした。

また 2/21(土)には、豊川宝飯 RC 創立 40 周年記念式典・祝賀会が開催され、私と川口幹事とでお祝いに伺いました。豊川宝飯 RC の姉妹クラブである台中松竹 RC(RI3462 地区・台湾)から 13 名、友好クラブのクパチーノ RC(RI5170 地区・サンフランシスコベイエリア)から 9 名の方が出席されており、大変賑やかな式典でした。クパチーノは apple 本社が所在している街です。IT 業界トップの集積する地域で、全米でもトップクラスの高収入の街でもあります。笠原盛泰豊川宝飯 RC 会長は、メモも見ずに中国語と英語で歓迎のスピーチをされていました。

本年度は豊橋 RC の 75 周年、豊橋東 RC の 30 周年と分区分クラブの周年行事続き、豊川宝飯 RC で 3 回目です。この後も 4 月

に豊橋南 RC の 60 周年式典が控えています。各クラブらしさを前面に、お金をかけた周年行事もあれば、会員の手間を惜しまぬ周年行事もありました。いずれも節目に到達出来たことを喜び、次の節目に向けての結束を再認識する、素晴らしいお祝いの会であったと感じております。

## 【日本ボーイスカウト愛知連盟活動報告・寄付目録贈呈】

### 村田慈幸さん



日本ボーイスカウト愛知連盟穂の国地区豊橋第 8 団ローバースカウトに所属している村田慈幸と申します。ボーイスカウトにはビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウトと 5 段階のスカウトのプログラムがあります。ローバースカウトは 18～25 歳

の青年が所属するスカウトとしての集大成のプログラムです。またビーバー隊の副長補も務めており、ビーバー隊の指導も行っていきます。

ボーイスカウトは 1907 年にイギリスにて誕生しました。青少年の健全な成長を願う人格・市民性・肉体的発達を目的として活動が始められました。「ちかい」を立てることでスカウトの仲間になります。

具体的な活動内容を紹介させていただきます。今年度は豊橋まつりで丸太を使ってグッズを作るという企画を行いました。ボーイスカウトの活動には 530 運動もあります。530 運動を通じて、環境美化・地域貢献を行っています。

今年の 8 月に広島県神石高原で「第 19 回日本スカウトジャンボリー(通称 19NSJ)」が開催されます。日本スカウトジャンボリーとは、4 年に一度開催される大規模スカウト大会で、国内外から約 8000 人のスカウトが一堂に会します。

8 年前の 17NSJ には約 1 万 3000 人が参加しました。4 年前の前回大会はコロナ禍の為、全国分散開催でした。東京で全体集会も開催されましたが、基本的にはオンラインを通じて各サテライト会場での参加という形式でした。

今回の 19NSJ は約 8 年ぶりに全国の仲間が広島に集まる大会ということになります。穂の国地区からは 40 名を超える仲間

が参加予定です。19NSJについての紹介 VTR をご覧ください。

我々の活動を支援していただいている豊橋北 RC の皆様に感謝申し上げます、発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

#### 《寄付目録 贈呈》

目録

一、金壹拾萬円也

右の通り、贈呈いたします

令和八年 二月 二十四日

豊橋北ロータリークラブ 会長 高坂泰弘

日本ボーイスカウト愛知連盟徳の国地区協議会殿



#### 【サンクス奨学生奨学金授与】

アルファロ フェレイラ君



先週修士論文の発表会があり、そこで**優秀賞**を頂きました。自分は外国人で日本語もそれ程うまくないのに、受賞することができて本当驚きました。一年間、豊橋北 RC から奨学金を頂くことができたお陰で研究に専念することができました。本当に感謝いたします。また毎月こうして皆さんの前でスピーチをすることで、自分の発表力を向上させることができたのもロータリーの皆さんのお陰だと思います。本当にありがとうございました。

来週大学の卒業式があり、両親が豊橋に遊びに来る予定です。両親が豊橋の果物を食べたいと言っているのですが、道の駅と大一青果の果物売り場に連れて行きたいと思います。

#### 【米山功労者マルチプル 感謝状贈呈】 福井英示会員



#### 【豊橋北ロータリークラブ細則変更について】

川口和樹幹事

豊橋北ロータリークラブ細則改正について 2/3 の例会で会員の皆様へご案内させていただきました。豊橋北ロータリークラブ細則第 13 条「本細則は、いかなるクラブ例会においても改正できる。クラブ細則の変更には、当該例会の 21 日前に各会員に書面による通知を行うこと、投票の定足数を満たす会員が出席していること、全票の 3 分の 2 が変更を支持することが義務づけられる」となっており、これまでに提訴の申し出もありませんでしたので、改正案の審議を行います。以降、豊橋北ロータリークラブ細則を省略し、「細則」として進めさせていただきます。

それでは議事に入らせていただきます。細則第 4 条「役員の仕事」第 1 節の規定により、会長が議長を務めることになっておりますので、高坂会長よろしくお願いたします。

初めに定足数の確認をいたします。クラブ会員数 61 名、本日出席会員 44 名で出席率 72.13% となり、定足数である本クラブ会員総数の 1/3 を満たしていますので、本例会は成立することをご報告します。

細則改正案について改めてご説明させていただきます。今後ともサンクス奨学生を受け入れていきたいという意向をフレキシブルに実現する為、細則第 12 条「豊橋北ロータリークラブ奨学金基金(略称 サンクス基金)」第 9 節「内容」について改正させていただきました。

#### 改正前

本クラブ、本クラブ設立 60 周年記念行事の一環として、本基金によって、2017 年 4 月より 2026 年 3 月まで、以下の奨学金を運営する。但し、本細則の改正により、運営期間の延長、短縮することができる。(以下略)

#### 改正後

本クラブ、本クラブ設立 60 周年記念行事の一環として、本基金によって、2017 年 4 月より 2026 年 3 月まで、以下の奨学金を運営する。但し、運営期間については、本基金運営委員会で審議し、理事会が承認することで変更できるものとする。(以下略)

それでは決議に入ります。ご承認いただけるようでしたら拍手をもってお願いいたします。(3 分の 2 以上の拍手多数)

拍手多数をもって承認されたことを確認しました。以上で細則改正案の承認を終了します。ありがとうございました。

## 幹事報告

### 川口和樹幹事

- ①新会員通知(欠席者郵送)、『ロータリーの友』2月号を状差しに配布しました。
- ②クラブHPの更新通知メール機能稼働開始後、HPへのアクセス数が増加しております。今後とも当クラブのHP、Facebookの確認をよろしくお願いいたします。

## 例会変更

3月4日(水) 渥美RC 豊橋東RC  
3月5日(木) 田原RC

## 例会休会

なし

## ロータリーの友紹介

### 岡本敏幸広報・雑誌委員

2月号の紹介 平和構築と紛争予防月間  
横組み 2-3頁:RI会長メッセージ 行動が私たちを定義する  
フランチエスコ・アレツォ  
5-13頁:特集 平和構築と紛争予防月間  
平和を願う言葉の記録  
縦組み 2-6頁:これからの時代に求められる  
不登校支援について  
医学博士(筑波大学名誉教授)  
精神科医、批評家 齋藤環

## 委員会報告

### ロータリー財団委員会

### 安達道行委員長

杉野公郎会員より180ドル、小林利生会員より150ドル、高坂泰弘会員より100ドルの寄付がありました。ありがとうございました。

### 米山記念奨学委員会

### 藤城寿彦副委員長

杉野公郎会員、小林利生会員より1万円の寄付がありました。ありがとうございました。

### 豊橋北RC奨学金基金委員会

### 藤井純一委員長

山本和正会員、金森正芳会員、松井幹晴会員、杉野公郎会員、小林利生会員、辻直樹会員、高畑直司会員より1千円の寄付がありました。ありがとうございました。

### 国際奉仕委員会

### 藤井純一委員長

「愛の小銭箱」へのご協力よろしくお願いいたします。

(集計結果: ¥23,000)

### 広報・雑誌委員会

### 田崎政秀委員長

次週の例会は国際ロータリー第2760地区ロータリーの友地区代表委員の池森由幸様をお招きし、「ロータリーの友に関する最新情報」についてお話をさせていただきます。

### 2026-27年度親睦活動委員会

### 小林利生委員長

過日ご案内した次年度7月の納涼例会につきまして以下ご連絡いたします。

- 本朝の段階で定員の48名に達しましたので、お申し込み受付を締め切らせていただきます。ご了承下さい。
- 今年の大相撲はチケットの予約が先着ではなく、申し込んだ後に抽選が行われる為、落選する可能性があります。その場合は、今回の企画を一旦白紙とさせていただきます、新たな例会企画をご案内する運びとなります。その際には今回のお申込みに関しても白紙とさせていただきます、新たな企画に対してお申し込みを改めていただくこととなります。抽選結果が決定

する3月下旬に改めて詳細をご案内させていただきます。

## ニコニコボックス

### 氏原憲志会場委員

田崎政秀会員	1、2月と2か月間司会を担当させていただきました。ありがとうございました。
橋本努会員	本日娘が青少年交換候補生として発表させていただきます。貴重な機会を頂きありがとうございます。
辻直樹会員	本日の例会を担当させていただきます。橋本美空さん、よろしくお願いいたします。
高坂泰弘会員 川口和樹会員	橋本美空さん、橋本真紀様、本日は豊橋北RCの例会へようこそお越しいただきました。いよいよ本年8月よりスタートする青少年交換プログラムのお話、楽しみにしております。会員一同、美空さんの大冒険を応援しております。

## 本日のプログラム

### 担当: 青少年奉仕

### 【~橋本美空さんの大冒険~(青少年交換プログラム)】

#### 辻直樹委員長



本日の例会は青少年交換プログラム派遣候補生の橋本美空さんにお話をさせていただきます。ホストクラブとして当クラブも全面的に応援をしていきたいと思っております。それではよろしくお願いいたします。

### 【ロータリー交換留学に向けて】

#### 橋本美空さん



皆様こんにちは。橋本美空と申します。本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。私は豊橋北RCの皆様にご支援いただき、第2760地区からの交換留学生として8月から1年間、フィンランドへ派遣していただく予定です。本日はそのご報告と、私が今どのような思いでこの挑戦に向

き合っているのかをお話しさせていただきます。

留学にあたり今の私の気持ちをお話ししますと、深い森の入り口に、一人で立っているような感覚です。前を見ても遠くまではよく見えません。どこまで続くのかも分かりません。足元も少し不安です。これから始まる留学という経験は、深い森を一人で歩く冒険のように感じています。でも、不思議と怖いだけではなく、森の中、そして森の向こうには、今の私がまだ知らない景色が広がっている気がします。だからこそ一歩踏み出してみたいと思いました。今日は「なぜ、応募しようと思ったのか」、そして「留学先で、私は何を見つきたいのか」についてお話しさせていただきます。最後までお聞きいただけましたら幸いです。

私は豊橋市立羽田中学校を卒業し、現在、豊橋東高校1年生の16歳です。性格は周りから「ポジティブだね」「明るいね」と言われており、自分でもそう思っています。新しいことがあると、まず「やってみよう」と思ってしまうタイプです。得意なことは、楽しむことと人と話すことです。苦手なことは丁寧さです。「少し雑だよ」と言われることもあります。でも、その「雑」であることは、完璧に準備が整うまで待つよりも、まず一歩を踏み出そうという気持ちの裏返しでもあります。だから今回も完全な準備ができるまで待つのではなく、挑戦するから成長できると信

じて一步を踏み出しました。

私の趣味は三つあります。一つ目はチェロです。中学校から続けていて、音楽を通して仲間と一つのものを作り上げる楽しさに魅力を感じています。チェロを通して学んだ一番大きなことは、音楽は言葉がなくても人と人をつなげてくれるということです。音程を合わせることや相手の音を聴くことは、相手を理解しようとする姿勢そのものだと感じています。フィンランドでも音楽を通して人とつながる経験ができれば嬉しいと思っています。二つ目はモーターサイクルです。幼稚園の頃から家族で楽しんできました。

そして三つ目が習字です。文字をきれいに書くことだけでなく、自分の気持ちを表現できるところに魅力を感じています。フィンランドではデザインや文字文化が大切にされていると聞き、習字との共通点を感じています。フィンランドへは習字道具も持参し、現地の方々に体験してもらいながら、「書くことの楽しさ」や日本文化の一端を伝えていきたいと考えています。

中学生の時、学校に短期留学生が来ました。私は話しかけたいと思いながら英語に自信がなく、ほとんど話せませんでした。そのもどかしさが、ずっと心に残っていました。あの時に感じた距離を自分の力で縮めたいと思っていました。

交換留学を初めて具体的に意識したのは、中学3年生の時に参加させていただいたRYLAセミナーでした。そこで帰国生の方とお話しをする機会がありました。その方は「正直、最初はとても怖かった」、「現地ではつらいこと8割、楽しいこと2割だった」と話していましたが、そのあとにこう続けました。「正直、帰りたいと思った日ばかりで大変だった。でも、それ以上に『自分が変わった』と感じられた。」と。「楽しかった」ではなく、「自分が変わった」と言ったことがとても印象的でした。そのときの笑顔が今でも忘れられません。その方は自然体なのに自信に満ちていて、同世代の女の子にはない雰囲気でした。その姿を見て、「怖いけれど、やってみたい」、「不安だけれど、挑戦してみたい」と思いました。

元々「いつか留学してみたい」という気持ちはありました。でも、それはずっと「いつか」の話でした。RYLAセミナーで出会った同世代の一言を聞き、「特別な人だからできる」のではなく「挑戦した人が変わっていく」のだと感じ、そのとき初めて「私も行けるかもしれない」と思うことができました。RYLAセミナーへの参加は、私が森の入り口に立った瞬間だったと思います。

ロータリーの交換留学制度は単なる語学留学ではないと教わりました。国際親善大使として派遣されること、つまり日本の代表の一人として現地に行くということです。

また3年間のプログラムである点も特徴です。留学前1年間は候補生として準備し、次の1年間は留学生として現地で生活して学び、帰国後の1年間は帰国生として、次の候補生と共に活動します。更にその後も、ROTEXとして次の候補生を支える側にもなります。1年の留学期間だけで終わりではなく、自分が学んだことや経験を、次の世代に「つなげていく」という仕組みがあるロータリーの交換留学の制度に強く惹かれました。

そして昨年5月、2760地区主催のカルチャーフェアに参加させていただきました。会場には笑い声があふれていました。国ごとのブースにはそれぞれの国旗が飾られ、お菓子や写真が並んでいました。帰国生の皆さんは留学先での失敗談や感動した経験を、インバウンドの皆さんは自分の国の文化習慣や魅力を、それぞれ教えてくださいました。その場の空気はとてもあたたかく、まるで大きな家族のようでした。異なる文化との交流の楽しさも感じました。どのブースにも共通していたのは「自分の国が好きだ」という誇りでした。

特に印象に残っているのは、ある帰国生の方が失敗談を話しながらも「それでも行ってよかった」と笑っていた姿です。その

笑顔を見て、失敗しても語れる経験になるのだと感じました。

その時、「私もこの輪の中に入りたい」と思いました。そして「見る側」ではなく「語る側」になりたい、と思いました。帰国生やインバウンドのように、自分の国の魅力を、自分の言葉で話せる人になりたいと思いました。不安はありました。でも、「やってみよう」という気持ちが、不安を上回りました。カルチャーフェアが私が森の中に進むことを決断した瞬間でした。

もちろん不安は今でもあります。一年間、日本に帰国できないこと。一年間、両親も友達も現地に来てはいけないこと、一人で飛行機に乗ること、英語とフィンランド語で生活すること、友達ができなかったらどうしよう、ホストファミリーはどんな人だろう・・・考え始めると頭の中が不安でいっぱいになります。

フィンランド語の「文法」を初めて見た時、その複雑さに気が遠くなりそうでした。「格変化」が15もあり、また英語と語源が異なるため、全ての語彙をゼロから覚える必要もあります。

でも、不安があるからこそ挑戦だと思っています。私は考え方を変えました。新しい経験は最初は必ず怖い。森が暗いのはまだ目が慣れていないだけかもしれない。「不安は乗り越えるためにある」、そう思うようにしました。転ぶために留学する、それが留学の目的です。転んでも、立ち上がればいい。森の中ではそれを繰り返すしかありません。例えば、分からないことがあったら分かったふりをせず、たとえ時間がかかっても「もう一度教えてください」と伝えること。それをできるようにすることが、私なりの「前に進む一歩」だと思っています。

派遣国のフィンランドは私の第一希望でした。決まった時は本当にうれしかったです。フィンランドの教育は結果よりもプロセスを大切にするそうです。幸福度が世界一高い国としても知られています。国土の約75%が森林、約10%が湖で、この大自然に囲まれた中で近代的生活を可能にしている国とも聞きます。そして日本人と価値観が似ている部分があるそうです。

魅力的な話の尽きないフィンランドですが、教育現場は日本と本当に違うのか、何が違うのか。働き方はどうなのか。人と自然との距離はどうか。

まず、私は日本という国について考えました。日本は豊かな国です。私が恵まれた環境にいることは間違いありません。だからこそ、別の価値観の中で一年間生活したら、私はその「豊かさ」について、どんな「基準」を持つようになるのだろうか。日本の豊かさとフィンランドの豊かさ、何が同じで何が違うのか。例えば一日の授業時間や宿題の量。放課後をどう使っているのか。大人がどのような時間に仕事を終え、どのように家族と過ごしているのか。そうした「日常の選択」の積み重ねに、その国の考える「豊かさ」が表れているのではないかと考えています。その答えを本やインターネットではなく、実際に生活して身体で感じ、自分の目で確かめたいと思います。将来、進路や働き方を考える時、その視点や考え方は、大きな財産になると考えています。

毎月開催される青少年交換プログラムのオリエンテーションで、私を含め10人の候補生の仲間と準備をしてきました。帰国生の先輩方からアドバイスもいろいろ貰いました。インバウンドとも交流し、仲良くなったイタリア人のイレネと二人で名古屋の大須へ遊びに行ったりもしました。そのおかげで不安は少しずつ減り、楽しみが増えてきました。

その中で感じたのは、「私は一人ではない」ということです。森に入る時は一人だったかもしれませんが、でも、入ってみたら、周りにはたくさんの支えがあることに気づくことができました。

留学で楽しみにしていることもたくさんあります。一つ目はウィンタースポーツやサウナなど、フィンランドの自然と共存した生活です。日本では日常生活から離れて自然を体験しに行くということがほとんどですが、フィンランドでは日常の中に自然があります。そんな日常の中での自然を体験したいと思っ

ています。

二つ目は現地での学校生活です。フィンランドの教育では、自分の意見を持ち、答えを一つに決めず、考えた過程を大切にしているそうです。その環境に身を置くことで、考える力を鍛えていきたいです。

三つ目は、ホストファミリーとの日常生活です。日々の会話や休日の過ごし方など、何気ない日常が一番大切な時間だと思います。言葉が通じないからこそ、表情や気配りを大事にして家族の一員として様々なことを体験したいです。

また、フィンランドへは習字道具を持っていきます。学校の友人やホストファミリーにも習字を体験してもらいたいです。日本文化を紹介しながら、「文字を書く」ということを一緒に楽しみ、一緒に笑い合う時間を楽しみたいです。言葉や国籍、文化が違うからこそ、多文化の良さに触れ、体験し、視野を広げていきたいです。

怖いと感じていることは「語学」です。英語に加えてフィンランド語も習得しなければなりません。フィンランドの空港に到着したら、ホストファミリーの家ではなく、フィンランド語の語学キャンプに空港からそのまま直行すると聞いています。最初は赤ちゃんのように単語を一つずつ覚えるところからのスタートです。きっと何度も聞き返し、何度も間違えると思います。大切なのは「伝えたい」という気持ちであると信じ、失敗を恐れず、頑張ります。

一番怖いのは差別やいじめにあったらどうしようかということです。言葉がうまく通じない中で、誤解されることがあるかもしれません。文化の違いから距離を置かれることもあるかもしれません。

そのようなことを考えているうちに、もう一つの怖さに気づきました。それは、もしかしたら私も気づかないうちに他国の人に対して差別をしていたかもしれない、ということです。「この国の人はこういう性格だ」と決めつけたり、ニュースやインターネットの情報だけでその国の印象を作ってしまった。私は「差別される側」になることを恐れていましたが、同時に「無意識に差別する側」になっていないか、そのことにも向き合わなければならないと思いました。

もし私が現地で少しでも寂しい思いをしたなら、それは「違いを理解するとはどういうことか」を学ぶ機会なのかもしれません

ん。差別を「受けないように頑張る」のではなく、差別を「しない人になる」ために学びたいと思っています。もちろん簡単ではないと思います。もし差別を受けたら泣いてしまうと思います。それでもその気持ちから逃げず、考え続けたいと思います。

また現地では失敗や間違いもたくさんすると思います。もし失敗したらその失敗を直視し、理由を考え、自分なりの答えを出し、前に進みたいと思っています。森で転んでも、立ち上がる。それを繰り返したいと思います。

私は、2760 地区の皆様には派遣していただき、フィンランドのロータリーの皆様に受け入れていただく立場です。だからこそ、感謝を忘れないこと。謙虚で誠実であること。失敗を恐れず挑戦すること。自分を偽らず、自然体でいること。そして人と人、国と国をつなぐ架け橋になること。日本を代表する国際親善大使であること。それが私の役割だと思っています。

今回の経験を通して、何事にも前向きに挑戦できる人になりたい、違いを受け止められる人になりたい、そして自分の言葉で話せる人になりたい、と思います。森を抜けることが目標ではありません。森の中で自分の足で歩き続けられる人になることが目標です。

そして、自分の足で歩き続けられるようになった時、今度は森の入り口で立ち止まっている誰かに「大丈夫だよ」と声をかけられる人になりたいです。皆様がこうして私を送り出してくださるように、いつかは私も誰かを送り出す側に立てる人になりたい。それが今の私の目標です。

最初に交換留学は深い森を一人で歩く冒険だとお話ししました。でも今は少し気づいたことがあります。森の中は確かに暗いかもしれませんが、でもその暗い森の中でも、「灯り」で道を照らしてくださる方が私の周りには沢山いるということに気づきました。家族。候補生の仲間。帰国生の先輩方。そして支えてくださるロータリークラブの皆様。皆様が、私の進む道を照らしてくださっています。だから私は安心して一歩を踏み出せます。

帰国後は、私も、そんな「灯り」を持てる人になりたいです。私も小さな「灯り」を持ち、もし将来、誰かが「留学してみたい」と迷っている時はその人の道を少しでも照らせる人になれるよう、一年間、精一杯挑戦してきます。本日は本当にありがとうございました。



監修・発行	会場委員会
写真撮影	会場委員会